大阪大学
THE UNIVERSITY OF OSAKA

Press Release

取り組み

2026年９月１日

＼日本の技術を“世界標準”で実装／

標準化人材育成と大学発技術のグローバル市場形成を推進

ペプチドシークエンサー研究が OCEAN プロジェクトに採択

❖ 概要

2026 年 8 月 24 日、大阪大学は、同産業科学研究所の谷口正輝教授が研究統括を務める「ナノセンシングシークエンサーの研究」に関する特定新需要開拓事業活動計画において、経済産業省の**特定新需要開拓事業活動計画認定制度（OCEAN プロジェクト）の共同実施者に認定**されました。（認定事業者：ソニーグローバルマニファクチャリング＆オペレーションズ株式会社、共同実施者：国立大学法人大阪大学）。OCEAN プロジェクトは、大学と企業による戦略策定を支援することで、共同研究の初期段階から「世界標準」を見据えた社会実装と国際競争力の強化を後押しするものです。今回の OCEAN プロジェクトの認定により、谷口教授が研究開発を進める**ペプチドシークエンサー技術の**市場における国際標準化を日本がリードするための重要な第一歩となることが期待されます。



ナノセンシングシークエンサー研究の概略図

また、これに先立ち 7 月 17 日には、同じく共同研究を進める株式会社ドリームインキュベータを含む 3 機関で、**令和 8 年度「基盤的共同研究開発に関するオープン＆クローズ戦略策定の推進・体制整備強化に向けた実証調査事業」**にも採択されています。本事業において大阪大学は、企業とのオープン＆クローズ戦略の策定と並ぶもう一つの柱として、教育機関である大学ならではの国際標準化人材の育成に取り組みます。

加えて、8 月 1 日、産業科学研究所は、今回の OCEAN プロジェクト認定に合わせて国際標準化を支援するための新組織である**「国際標準化イニシアチブ」**を設立しました。国際標準化イニシアチブでは、International Organization for Standardization（ISO、国際標準化機構）や International Electrotechnical Commission（IEC、国際電気標準会議）での国際標準化に向けて、さまざまな国々の企業・団体・大学との連携推進に必要な多文化環境での合意形成能力、技術議論能力を養成するリカレント（リスキル）プログラムの開発、提供を予定しています。

❖ 背景・内容

研究開発成果の社会実装や市場展開をめぐっては、標準化（ISO・IEC など国際標準の策定）や技術、知的財産の公開・保護・秘匿を戦略的に組み合わせる「オープン＆クローズ戦略」の重要性が高まっています。しかし、日本の多くの研究機関では、これらの戦略を研究開発と一体で進める体制が整っておらず、これを構想・実行できる標準化人材も不足しており、優れた技術を生み出しても、世界の共通ルール（国際標準）や市場の主導権につなげきれていないのが現状です。研究成果を「つくる」だけでなく、世界で「使われる仕組み」まで設計することが、国際競争力を高める上で重要な課題となっています。

これらの課題を解決するため、経済産業省は OCEAN（Open & Close strategy with Exploiting Academic kNowledge）プロジェクトを創設し、大学と企業による戦略策定を支援することで、共同研究の初期段階から「世界標準」を見据えた社会実装と国際競争力の強化を後押ししています。同プロジェクトが大学を対象とするのは、戦略策定にとどまらず、それを将来にわたって担う人材の育成までを一体で進めることを期待しているためです。標準化への取り組み自体は公的研究機関や企業でも行われていますが、体系的な教育を通じて次世代の標準化人材を継続的に輩出できることは、教育機関である大学ならではの強みです。

今回認定された事業で中核となるのは、谷口教授が研究開発を進める世界をリードする**ペプチドシークエンサー技術**です。創薬や精密医療の発展を支える重要技術として、世界的な市場拡大が期待されていますが、基礎となるペプチド／タンパク質の単分子シークエンス技術と、商用上の支配的標準が未確立であり、まさにブルーオーシャンとして立ち上がりつつある市場です。今回の OCEAN プロジェクトの認定は、同市場における国際標準化を日本がリードするための重要な第一歩となることが期待されます。

また、2026 年 8 月 1 日、産業科学研究所は、今回の認定に合わせて**国際標準化を支援するための新組織である「国際標準化イニシアチブ」を設立しました。**国際標準化イニシアチブでは、ISO・IEC での国際標準化に向けて、さまざまな国々の企業・団体・大学との連携推進に必要な多文化環境での合意形成能力、技術議論能力を養成するリカレント（リスキル）プログラムの開発、提供を予定しています。

本プログラムでは、本事業のペプチドシークエンサーの国際標準化案件を「生きた教材」として、大学院生・若手研究者から企業の標準化担当者までが、規格原案の作成、知財戦略との連動、国際会議の場での合意形成までを実地で経験する機会を提供します。座学と実践を組み合わせ、研究力と交渉力を兼ね備えた国際標準化エキスパートを体系的に育成し、修了者が大学・企業双方で標準化活動の中核を担う人材循環を生み出すことで、日本全体のルール形成力の底上げに貢献します。また、本イニシアチブは、情報・量子科学、材料・ビーム科学、生体・分子科学、ナノテクノロジーなど多岐にわたる研究分野を擁する産業科学研究所発の事業化案件に対し、国際標準化や規格開発の段階で支援することを目的とし、同研究所発の技術シーズを中心とした標準化活動を強化していきます。

❖ 今後の展望

日本の大学として先駆的である国際標準化の推進へ向けた一連の取り組みは、今後、産業科学研究所だけでなく大阪大学全体へ展開し、世界のルールづくりを主導する大学を目指します。本学は、国際標準化を研究成果の重要な「出口戦略」と位置付け、技術を生み出すだけでなく、「大学発の先端技術の国際標準化」、「国際標準化をリードする人材の育成」を全学レベルで強化し、大学発技術のグローバル市場形成を全学体制で支援していきます。

❖ **特記事項**

2026 年 9 月 25 日(金)の『第 120 回 産研テクノサロン』では、OCEAN 実証事業採択特別企画として「グローバルビジネスを加速する国際標準化」をテーマに、国内トップクラスの専門家によるセミナーを開催いたします。

https://www.sanken.osaka-u.ac.jp/education/event.html#salon120

また、2026 年 12 月 2 日(水)～4 日(金)にインテックス大阪で開催される『RoboNext2026』(主催:日本ロボット工業会・日刊工業新聞社)では、大阪大学が「国際標準化フォーラム」および「GISHW テックシンポジウム」を開催します。本フォーラムでは、世界をリードするペプチドシークエンサーをはじめ、フィジカル AI・ロボット、ファインバブル、宇宙・海底探査など、国際標準化を見据えた先端テーマを取り上げ、大阪大学の今後の推進体制を議論するパネルディスカッションも行う予定です。